

生徒会役員が自主的に学校の枠を 超えて交流する場の意義

ー多摩生徒会協議会を事例に

荒井 翔平 (東京薬科大学 / 生徒会活動支援協会)

渡部 裕司 (綾瀬市立綾北中学校)



<https://bit.ly/3uEQFm4>



報告の概要

1. 生徒自身が運営する「多摩生徒会協議会」を対象とした聞き取り調査

→その活動の意義を明らかにする

2. 生徒主導型の生徒会役員の交流が抱える課題・海外の事例

はじめに：生徒会活動の意義

生徒会活動の定義（高等学校学習指導要領）

学校生活の改善・向上を目指すために、
生徒の立場から自発的、自治的に行われる活動

シティズンシップを実践的に学ぶ場

はじめに：生徒会活動の実情

生徒会組織 の問題

生徒会の構成員は毎年3分の1が入れ替わる

役員の任期が短い（1年ないし半年）

→活動の継承の難しさ

教員の問題

教員が特別活動について研修を受ける機会は少ない

教職課程での特別活動の取り扱い変更

→自発的・自治的な生徒会活動の運営を促す指導ができる教員は少ない？

はじめに：生徒会役員交流の可能性

異なる学校の生徒会役員が交流することは、生徒会活動の活性化に向けた機会となるのでは？

教員（行政）主導型か、生徒主導型か？

【研究事例】 林幸克（2016） 岐阜県可茂地区＜教員主導型＞

→ 「身だしなみや挨拶、交通マナーなどを自分たちで意識させたいという教員の意図」 から開始

はじめに：研究目的

生徒主導で始まった生徒会交流会の事例から、生徒会間（多校）の連携の意義について明らかにする

研究対象

「多摩生徒会協議会」

運営は生徒のみ／教員は運営に関与しない <生徒主導型>

運営助言を弊協会が実施している

隔月の定例会（交流会）開催

生徒会活性化に向けた議論

国公立・私立問わず、中高生 平均20名参加

現在14期目（2008年度から活動）

研究方法

12期（2020年度）役員

3名に対し対面による聞き取り調査

各回の内容や運営にあたったことによる学びを聴取

舟島（2007）を参照し要約的内容分析を行った

多摩協 12期の活動内容

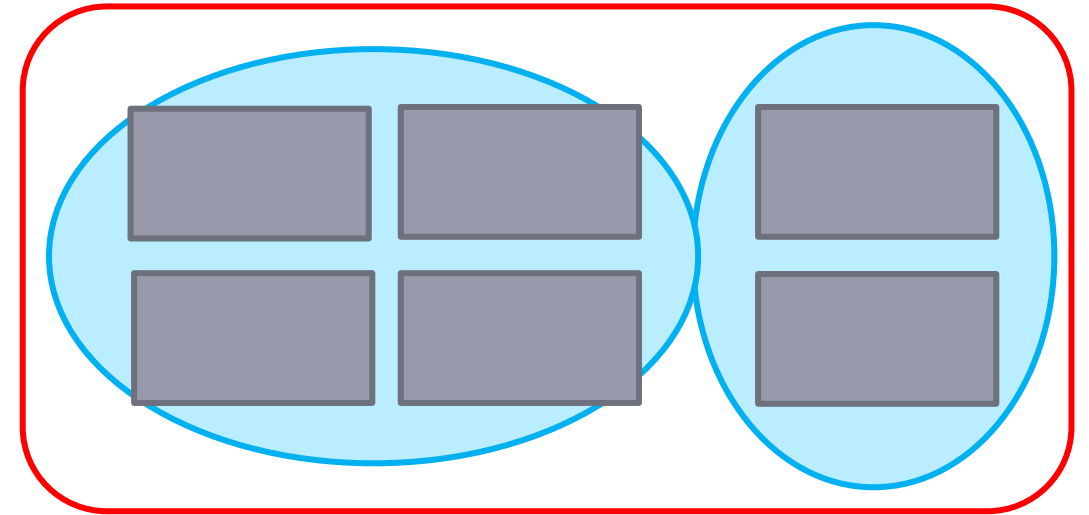
テーマ	開催日・会場
第1回 「今年のご目標 ～これからの生徒会～」	2019年4月28日（日） 顕明館中学高等学校（東京・八王子）
第2回 「生徒会と文化祭」	2019年6月23日（日） 東京都立小平高等学校（東京・小平）
第3回 「生徒会がつくる地域交流を考えよう！」	2019年8月24日（土） 八王子市子安市民センター（東京・八王子）
第4回 「生徒の自由を失わないためには」	2019年10月20日（日） 東京都立国立高等学校（東京・国立）
第5回 「スムーズな活動をするために」	2020年1月12日（日） 東京都立小平高等学校（東京・小平）
第6回 「一年のふり返り～これからの生徒会」	2020年2月9日（日） 昭和第一学園高等学校（東京・立川）

要約的内容分析の方法

1. インタビューした内容の文字起こしを実施
2. 原文を意味ごとに区切り、
研究上の問いに対応する形で要約（記録単位）
3. 記録単位をカード化し、
類似したものの同士で分類（サブカテゴリ）
4. サブカテゴリの類似したものの同士で
カテゴリを生成

※本来は2. 3. の間で同様の手続きで
同一記録単位群を生成するが、
調査規模が小さいため実施しなかった。

参考：舟島（2007）



記録単位 ÷ 意味ごとの区切り

サブカテゴリ

類似した記録単位のグループ

カテゴリ

類似したサブカテゴリのグループ

実際の例

カテゴリ：
生徒会と先生の関係についての議論（26記録単位）

サブカテゴリ：
先生と良好な関係を築くためのアイデア

189 先生と良好な関係が築けないのは、先生が生徒会に時間を作っていないことがあるので、スケジュールを立てて先生にあけてもらうという意見が出た。

126（顧問の先生との関係つくりのために）議事録を提出して確認してもらうようにするというアイデアが出た

実際には7記録単位ある

先生との関係が良好ではない学校の特徴（5記録単位）

先生との関係が良好な学校の特徴（4記録単位）

生徒会と先生の関係について話し合った（5記録単位）

生徒会顧問には保守派と革新派の先生がいる（1記録単位）

内容分析によるカテゴリ化の結果

カテゴリ項目	記録単位数
1 多摩協から個人が学んだこと、得たこと	33
2 多摩協が自校に生きたこと	37
3 多摩協の運営から学んだこと、得たこと	24
4 多摩協への継続参加の要因	6
5 生徒会団体としての取り組みの可能性についての議論	1
6 生徒会組織の在り方についての議論	29
7 生徒会と先生の関係についての議論	26
8 文化祭のあり方についての議論	25
9 校則改定についての議論	15
10 生徒会と地域・ボランティアについての議論	8
記録単位の合計数	204

2022-12-10

生徒会役員の学校間連携の意義

結果の要約

10のカテゴリは、大きく二分することができる考えた

個人の成長や学校の変容にかかわること（カテゴリ1～5）

多摩協で行われた実際の議論（カテゴリ6～10）

4つのカテゴリについて
焦点を当ててお話しします。

カテゴリ項目

1 多摩協から個人が学んだこと、得たこと	33	個人の成長や 学校の変容に かかわること
2 多摩協が自校に生きたこと	37	
3 多摩協の運営から学んだこと、得たこと	24	
4 多摩協への継続参加の要因	6	
5 生徒会団体としての取り組みの可能性についての議論	1	
6 生徒会組織の在り方についての議論	29	多摩協で行わ れた実際の 議論
7 生徒会と先生の関係についての議論	26	
8 文化祭のあり方についての議論	25	
9 校則改定についての議論	15	
10 生徒会と地域・ボランティアについての議論	8	
記録単位の合計数		204

カテゴリ6.生徒会組織の在り方についての議論(29) <主な項目>

生徒会のあるべき姿について
話し合った

ICT機器を用いた情報共有の方法について話し合った

生徒会の企画を通す方法について話し合った

強い焦点を当てた議論も
行われた

カテゴリ7.生徒会と先生の関係についての議論(26) <主な項目>

生徒会と先生の関係について話し合った

先生との関係が良好ではない学校の特徴

先生との関係が良好な学校の特徴について

先生と良好な関係を築くためのアイデア

教員側が作った議論体ではそもそも話題になりにくい

カテゴリ2.多摩協が自校に生きたこと(37)＜主な項目＞

多摩協の活動後にICTを活用した取り組みが広がった

先生との関係改善の方法を知り、実践した

多摩協の議論を校則の改訂の提案の参考にした

多摩協での話し合ったことを自校で共有した

多摩協で話題となった取り組みを実施した学校がある

議論したことを
実践することができている

カテゴリ1.多摩協から個人が学んだこと、得たこと (33) <主な項目>

定例会を重ねて議論が深まり、議題間のつながりに気づいた

多摩協を通して物事を見る視野が広がった

多摩協を通してコミュニケーション能力がついた

いろいろな話題に対して意見が聞けた面白さがあった

同じ生徒会役員を務める仲間が増えた

多摩協の活動が自校の活動へのやる気につながった

モチベーション向上と研修の役割を担っている

研究の成果：多摩協の意義について

各校生徒会の実践が交流され、広がるきっかけの場

生徒会役員個人の成長の場

教員主導では話題になりにくい部分も議論の俎上に
(教員と生徒の関係など)

生徒主導の生徒会団体の課題

団体の継続性

引継ぎ方法の確立と継続

後継者の育成

支援者の不在とシステム化

学校側の理解(適度な支援)

事例：生徒会団体の継続性

生徒主導型の生徒会間の交流組織は、近年多数出現

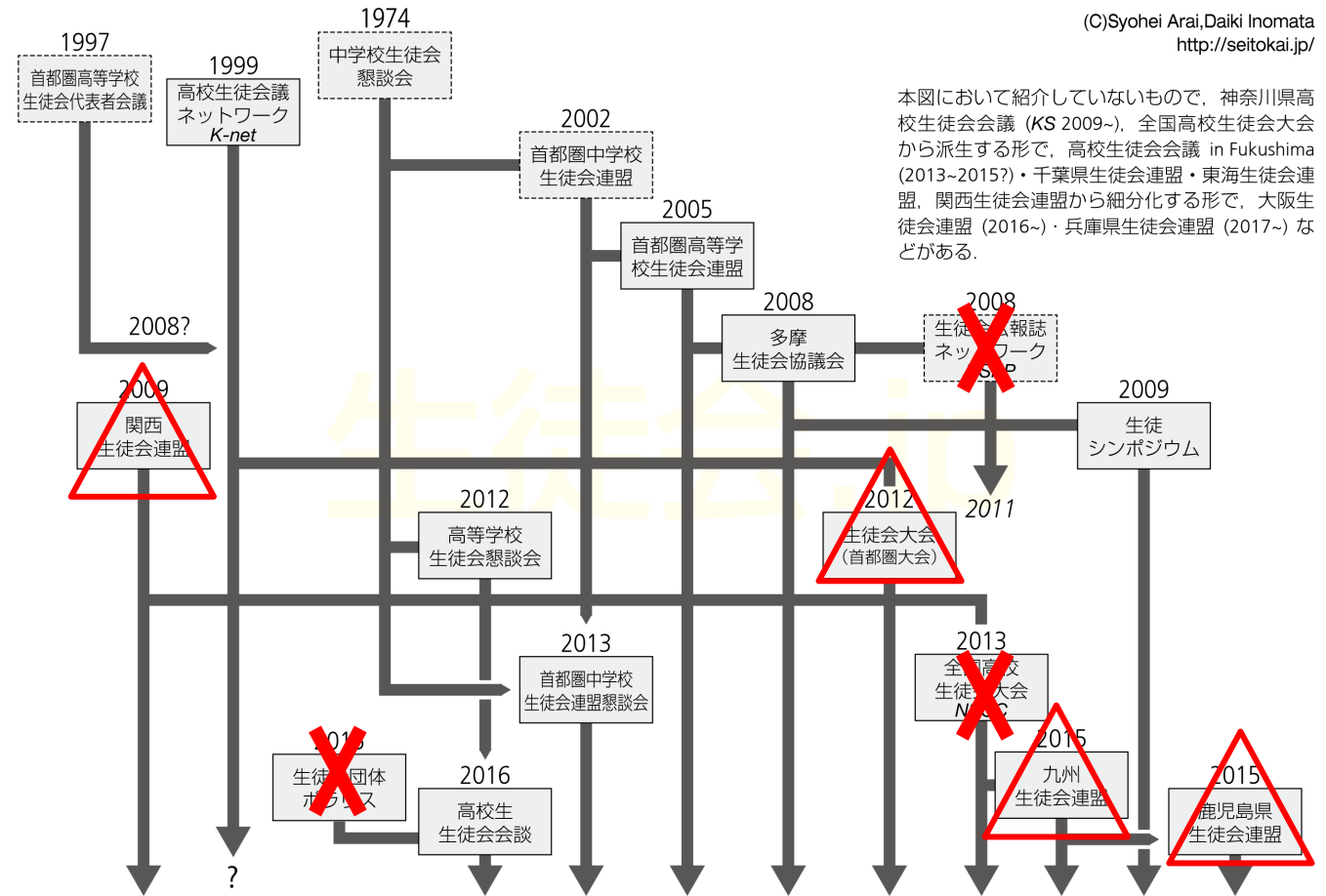
→SNSの発展等が要因



継続性に難がある

COVID-19の影響もあり

→適度な支援が必要？



生徒主導の生徒会団体の課題

団体の継続性

引継ぎ方法の確立と継続

後継者の育成

支援者の不在とシステム化

学校側の理解(適度な支援)

結論

多摩協の意義と必要性を聞き取り調査から明らかにした

- ・ 活動の新たな知識と経験の醸成

- ・ 活動と人的交流・議論による各校の生徒会活動の改善・研修機会

→ 生徒主導の交流活動は、教員主導型にはない本音の議論ができる

生徒主導の生徒会団体の盛衰の激しさ

→ 「生徒会団体」を支えるプラットフォームの必要性

ドイツの「生徒会支援協会」

連邦レベル・州レベルに存在する生徒会支援を目的とした団体

学校と密に連携をとり、生徒会がやりたいことに対して支援

スタッフは生徒会役員経験者等で構成

活動としては「生徒会コンサルタント養成講座」などを展開

予算は、プロジェクトごとに政府等からの助成金で賄っている